

教育方針	真理と正義を愛し、勤労を尊び、責任を重んじ、人間として調和のとれた、心身共にたくましい生徒を育成する。	重点目標	情理を尽くし、自ら考え、行動する生徒を育成する — 精神を修め、知と技を練る吉田高校 —
------	---	------	---

<マニフェストに関すること>

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	よく分かり意欲を高める学習指導の充実	生徒の授業満足度平均3.5以上（1から4の4段階評定）を達成する。 A：3.2以上 B：2.8以上 C：2.5以上 D：2.0以上 E：1.5未満	A	生徒の授業満足度は、「授業評価アンケート」によると教師の行う授業に対しては平均3.8、生徒の自己評価も平均3.8という結果となった。目標の平均3.5を上回る結果となった。	新学習指導要領に合わせ、1年生に加え2年生でも観点別評価を採り入れた研究を進める。また、学力の向上とともに意欲を高めさせる授業を実践し、授業満足度を高水準にとどめる。
	学習習慣を定着させる課題指導の充実	平常時学習時間平均60分以上、調査時学習時間平均120分以上を達成する。 A：60分以上（調査時120分） B：50分以上（調査時100分） C：40分以上（調査時80分） D：30分以上（調査時60分） E：30分未満（調査時60分）	B	平常時学習時間は、普通科56.8分、機械建築工学科37.2分、電気電子科43.5分、平均48.6分であり、調査時学習時間が普通科173.2分、機械建築工学科111.3分、電気電子科110.3分、平均142.0分であった。	「主体的に学ぶ力」を付けさせるためにも、学習時間の確保において各教科で宿題を与えるだけでなく、生徒に授業の振り返りや予習・復習の意義などを考えさせる。
	読書習慣を身に付けさせるとともに地域の先人に学ばせる指導の充実	図書の間貸出冊数一人当たり3冊以上、朝読書年間45日以上の実施を達成する。 A：45日以上 B：40日以上 C：35日以上 D：30日以上 E：30日未満	B	一人当たりの貸出冊数は2月1日現在2.6冊で目標には届いていない。朝の読者は45日実施して目標を達成した。	授業やホームルーム活動での図書館利用をさらに進める。「よしこうLibrary」発行や図書委員による図書紹介及び図書館利用の呼びかけを継続し、利用者の増加を図る。朝の読書は次年度も継続し、内容の充実を目指す。
生徒指導	規則正しい学校生活を送らせる指導と健康教育の充実	年間出席率平均98%以上、一か年皆勤率55%以上、年間欠席日数5日以上の者5%以内を達成する。 A：98%以上 B：95%以上 C：90%以上 D：80%以上 E：80%未満	C	平均出席率97.5%、一か年皆勤50.2%、年間欠席日数5日以上の者が15.9%となり、昨年度と比べ出席率はマイナス1.0%、欠席日数5日以上がプラス4.6%の結果となった。今年度の目標値では欠席5日以上が大きく上回り、同じ生徒が多く休んでいる状況がうかがえる。	早期に進路目標を定させ、そのために必要な長期及び短期目標を持たせる。また、学校生活での充実を図るため、日々の生活を振り返る時間をつくり、基本的な生活習慣の定着を図らせる。
	挨拶・身だしなみ・交通等規範に関する指導の充実	身だしなみ指導最終合格率100%、登下校時の交通事故0件を達成する。	C	身だしなみ指導においては、継続指導（時間をかけて修復させる指導）になる生徒が多くいたため、達成できなかった。交通事故は1件あり、もっと細やかな指導をしなければならない。	身だしなみや交通マナーについて、日々の生活の中で意識させる。着こなしセミナーや交通安全教室を通して意識の向上を図っていく。委員会活動も利用し、生徒の意識を高めていく。
	部活動・学校行事の充実	部活動加入率90%以上、県大会上位入賞、体育・文化部含め2部以上、生徒の学校行事満足度平均3.5以上（1から4の4段階評定）を達成する。 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：60%以上 E：60%未満	A	部活動加入率（97.2%）、県大会上位入賞（建築部1、2位；四国・全国大会、陸上競技部5位、弓道部女子6位、水泳競技3位；四国大会出場）、学校行事満足度平均3.5であった。	部活動紹介などを通して魅力発信を行う。部活動の様子をホームページなどを通じて紹介する。魅力ある学校づくりを目指し、地域とコラボした活動を増やしていく。生徒たちが自発的に活動し、楽しい学校生活になるように取り組む。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	生徒一人一人の適性に応じた進路指導の充実	就職試験一次合格率90%、就職決定率100%、第一志望校合格率90%、進学決定率100%を達成する。 A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：75%以上 E：75%未満（合格率）	A	就職試験の一次合格率97.1%で昨年よりも1.5%上昇した。縁故就職の未定者が3名、縁故就職から学校紹介へ切り替えて2月に試験に臨む予定が1名である。 進学決定率は、93.1%で数多くの生徒が早期に合格している。受験で不合格となったのは、専門学校を含め3名で第一志望への合格率は、95.7%であった。今後、受験をする生徒が不合格者を含め、5名である。	就職指導に関しては、応募前の職場見学の完全実施や複数企業を見学するようにし、できる限りミスマッチを防ぎ、早期退職者を減らす努力をしたい。 進学指導に関しては、合格率も大切な指標ではあるが、生徒自身が高い目標を設定し、その実現に向けてチャレンジする精神を養いたい。結果も大切であるが、そのプロセスを重視する指導を組織として行いたい。
	インターンシップによる職業観育成指導の充実	インターンシップの満足度平均3.5以上（1から4の4段階評定）を達成する。 A：3.5以上 B：3.0以上 C：2.5以上 D：2.0以上 E：1.5未満	A	9月から10月にかけて感染症が拡大し、実施が心配であったが、事故等もなく、無事に活動することができた。事業所の手厚い対応や先生方のサポートにより、生徒の満足度も3.8と昨年より0.2アップした。	看護、介護の分野を希望する生徒が多いが、コロナ禍では実施が難しい。生徒たちの進路理解を深め、充実した活動ができる事業所の選択ができればと思う。
	検定資格取得指導の充実	工業科検定資格取得、一人平均2種目以上を達成する。	B	試験結果が未発表の資格もあるが、現在のところ、今年度の取得平均は1.4である。学年別取得平均は、1年生2.9、2年生0.8、3年生0.5であった。1年生の取得率が大幅に向上している。ジュニアマイスター顕彰では、ゴールド5名、シルバー9名、ブロンズ2名と積極的に資格取得に努めている生徒も多い。	1年生の早い段階から、進路を見据えた資格取得の重要性を認識させるとともに、2年生以降についても資格取得の継続を指導する。部活動とも連携し、計画性のある受験と補習計画が必要であり、また読解力や計算力の向上がなければ合格率も上がらないので、基礎学力の向上も重要である。
人権・同和教育	いじめを許さない態度を育てる指導の充実	いじめ調査を各学期一回以上実施する。 いじめの未解決事例件数0件を達成する。	C	「生活と人権に関するアンケート」を各学期1回行い、いじめに関する調査を行った。調査で気になった生徒については、その都度担任が聞き取りを行い、状況を確認し対応している。	「吉高人権だより」等を活用して、いじめ問題に対する啓発に努めるとともに、日ごろから生徒の動向に気を配り、教職員共通認識のもと、いじめの積極的認知・解消を図る。
	人権委員会活動の充実	「人権だより」を年間6回以上発行する。 人権委員会の発表を年間2回以上実施する。 A：6回以上 B：5回以上 C：4回以上 D：3回以上 E：2回以下	B	「吉高人権だより」を12回発行した。人権委員会は、全校集会での発表及び文化祭での展示を行ったり、花の栽培をして花鉢を高齢者施設へ届けたりした。また、校内夏季研修会は感染症対策のため実施できなかったが、宇和島地区高校生人権委員夏季研修会では発表を行った。	人権委員会の活動を、より生徒主体のものになるよう工夫していく。
	地域・保護者に開かれた人権・同和教育の充実	人権・同和教育ホームルーム活動を年間2回以上公開する。	C	人権・同和教育ホームルーム活動は、公開授業期間中に実施したが保護者の参加は少なかった。人権・同和教育講演会については、保護者視聴用の会場を設けたが、参加者はいなかった。	引き続きホームページや「吉高人権だより」を通して、取組を発信していく。
交流教育	地域でのボランティア活動参加を促す指導の充実	各種ボランティア活動への参加、一人平均2回以上を達成する。	C	一人平均2回以上の実施は達成できていない。学校主催で行うボランティアについては学年縛りを設けるなどして感染症対策を優先したため。ただし生徒個人の参加や部活動単位で参加した事例もあり、今後ますます積極的に行われていくと感じる。	地域ボランティアや校内活動の機会を提供し生徒一人一人が自発的に行えるようにしたい。ボランティアネットへの登録や依頼のあったボランティアの紹介をスムーズに行う。
	地域の先人に学ばせ地域に貢献する心を育成する教育の充実	地域の福祉施設等での活動への参加者年間延べ250人以上を達成する。 A：250人以上 B：180人以上 C：140人以上 D：100人以上 E：100人未満	B	施設内での活動はできなかったが、昨年に引き続き花や手作りの置物を複数回お届けする、という形で交流活動を行うことができた。時期や施設によっては、お届けの際に屋外で直接利用者の方と交流することができた。	来年度も施設内での交流が困難であると予想されるため、現在の活動を継続できるように、今年度から春咲きの花の苗を育て始めるなど下準備をしておく。昨年度作成した木製のプラントナーが少し朽ちてきたものもあるので、来年度は新規で作ることを計画したい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
環境整備	公共物を大切に、環境保護に努める意識を育てる指導の充実	美化委員会による月1回の校内点検を実施する。 美化委員会の発表を年間1回以上行う。	C	校内点検は、学期に1回の定期点検の他、随時清掃後の清掃状況の点検を行った。不十分な箇所について声かけを行い、校内美化に努めた。 美化委員の発表では、5月に各教室にてリモートで実施した。	清掃方法・ゴミの分別を徹底し、更なる校内美化に努める。また、美化委員会の活性化に努め、環境保護の意識の高揚を図る。
	施設設備の安全点検と事後処理	施設設備の安全点検と事後処理を、全教職員の協力のもと適切に実施する。	B	学期に1回、年3回の定期点検の他、随時点検を行い、改善が必要な箇所については予算面で可能な限り対応できた。	安全点検を確実にを行うため、目的の周知を図る。また、随時点検の実施や連携を行うことにより、素早い改善ができるよう努める。

<マニフェスト以外に関すること>

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
教育相談・保健活動	教育支援的な相談体制の確立	生徒が気軽に相談できる体制を整えるとともに、外部機関との連携を図る。	B	生徒個人面談等を通して、生徒一人一人の状況を把握し、悩みや問題などに対応するよう努めた。また、スクールライフアドバイザーとの連携により、生徒だけでなく保護者との相談も行い、家庭と協力して問題の解決に取り組むことができた。	教育相談窓口の一層の周知に努めるとともに、教職員間の情報共有や、スクールライフアドバイザー、外部の関係機関等との連携により、生徒の不安や悩みに対応していく。
	健康教育・保健活動の充実	健康に関する講座の実践や「保健だより」の発行により、生徒の健康意識の高揚及び行動化を図る。	C	性教育講座や心とカラダのサポート講座などを外部機関から講師を招き、開催することができた。また、保健だよりを毎月発行し、本校生徒の実態とその時期に合った内容で健康情報を提供することができた。	引き続き生徒の健康意識を高められる機会の提供や啓発を行うとともに、できるだけ生徒が行動に繋げられるよう、生徒保健委員の活動を充実させ、また、教職員間で連携を図って生徒に呼び掛けていく。
工業教育	ものづくりを通じた人づくりの展開	地域産業との連携を図り、見学や体験学習を通して実践力と人間力を高める。 工場見学年5回以上、匠の技教室等を年30回以上実施する。 ものづくりコンテスト四国大会、全国大会の出場を達成する。 A：30回以上（見学5回） B：25回以上（見学4回） C：20回以上（見学3回） D：15回以上（見学2回） E：10回未満（見学1回）	B	工場・現場見学は、新型コロナウイルスの感染状況等を配慮して1回、1社で実施した。匠の技教室は7業種延べ20回実施し、その内1回はクラス単位で体験した。 高校生ものづくりコンテスト、若年者ものづくり競技大会で、四国大会、全国大会に出場し、上位に入賞することができた。	工場見学や匠の技教室を多く実施することで、生徒が興味関心をもち、将来の地域産業スペシャリストとして活躍できるよう今後も指導を継続する。 ものづくりコンテストでは、次年度も四国大会、全国大会への出場を目指して、指導を継続していく。
P T A 活動	協力体制のとれたP T A諸活動の実施	P T A諸活動（総会、交流会等）を保護者と協力して適切に行う。P T A理事会参加率70%以上を達成する。 A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：55%以上 E：55%未満	A	P T A三役の7名の方々を中心に理事の方々も協力していただき、体育祭・街頭指導等の活動をしていただいた。理事会は縮小での実施だったが、役員を選考について理事の方々に集まっていた大きく機会を持つことができ、73.7%の参加率であった。	感染症拡大の状況にもよるが、理事会を実施し、さらにつながりを持てるように連携を図る。
事務	経費の節約と円滑な事務処理の徹底	効果的な予算執行を行う。	B	県費需用費上半期執行率88.8%（前年度71.9%）県費（公費）、私費ともに早期の予算執行を心掛けた。	職員からの要望を聞き、早期実現に努めることで、より効果的な予算執行を行いたい。
		適正かつ円滑な事務処理を行う。	C	概ね適正に事務処理を行うことができた。	職員間で事務処理方法について確認及び共通理解を図ることで、より適正な事務処理が行えるようにしたい。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間の適正化を図り、休憩時間を確保する。業務の効率化を図り、時間の有効活用を図る。	C	教職員の業務の効率化に対する意識を向上もため「ノー残業デー」を設け、周知のための呼びかけを実施した。	男性職員休憩スペース設置を検討したい。
	職場環境の整備	健康講座や健康相談を定期的に実施し、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	C	教職員が相談しやすい環境を維持することはできたが、今年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響もあり親睦を深める取組が少なかった。	健康増進活動の実施が可能な状況になれば、企画したい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。